2017 年 3 月 6 日

アップライトとダウンライトを兼ね備え、自在なコントロールで光を的確に照射可能な照明 Cu-Beam Duo サスペンド型ライトが登場

ダイソン株式会社（東京都千代田区 代表取締役社長 麻野信弘）は、アップライトとダウンライトを一台に兼ね備え、自在に光の比率をコントロール可能なサスペンド型ライト、Cu-Beam Duo（読み方:キュービームデュオ）を発表しました。蛍光灯には、点灯時間の経過とともに低下する明るさ、不要な範囲までを照射する無駄な光、交換費用によりかさむ出費、異常音や危険性物質などのさまざまな問題が潜んでいます。そのため、多くの企業が LED 照明を採用しています[1]。しかし LED も、効果的に冷却されなければ、時間とともに発光効率が低下し、非効率的な照明となる可能性があります。Cu-Beam™サスペンド型ライトテクノロジーなら、その心配はありません。

ダイソンの照明カテゴリーを率いるジェイク ダイソンは次のように述べています。「私はチームと共に 10 年間、強力で耐久性の高い照明技術の研究に邁進してきました。そして、一日の中で生じる様々な作業に対応可能なテクノロジーを開発したのです。」

人々の生活は一日を通じ変化します。その時間帯や過ごす場所で求められる照明は異なります。そして、各々のニーズに最適な視覚的条件を実現するには、異なる照明レベルが必要となります。アップライトとダウンライト一体型の Cu-Beam Duo サスペンド型ライトは、照度コントロールが自在にでき、かつ配光が上下で自由に変えられるためニーズに合わせた照明レベルを提供できます。

カスタム設計のドライバーが配光を調整し、さまざまなニーズに対応：
例えば、プレゼンテーション中はプレゼンターのスクリーンが焦点となるように、上方向への光を多く、下方向への光を少なくすることができ、会議中は、より多くの光を下方向に照射して、テーブルでメモを取ったり話し合ったりするのを助けます。勤務時間外には、完全なアップライトによってスペース全体を間接照明で包み込み、日中の会議とは異なった空間づくりも可能です。必要な場所に照明を向けることで最適な視覚的条件を創り出し、無駄な光を減らすとともに目の疲れを軽減します。

Ricochet™テクノロジーがルーメンひとつひとつの出力を最大限に：
調整可能なワンタッチ式シャッターと反射面を採用した Ricochet™(リコシェ)テクノロジー[2]が、不要なダウンライトをアップライトに変換し、無駄な光を減らします。アップライトでは、調整可能なシャッターを閉じることで不要なダウンライトの光を減らし、上方向に反射してルーメン出力を最大化するため、非常に高い発光効率を実現します。ダウンライトでは、シャッターを開けることでより多くのルーメンを下方向に導き、作業平面上に降り注ぐ配光を最大化します。

ヒートパイプテクノロジーとは：
Cu-Beam™サスペンド型ライトには効果的な冷却システム、ヒートパイプテクノロジーが搭載されています。このシステムによって光源から熱を逃し、ウィングに沿って放散させます。Cu-Beam™サスペンド型ライトのウィングには真空密封された 6 本の銅管が延び、それぞれの銅管には少量の水が入っています。ライトのスイッチがオンになると、LED によって発生した熱によって管内の水は蒸気へと変わります。圧力差により、この蒸気は銅管に沿って移

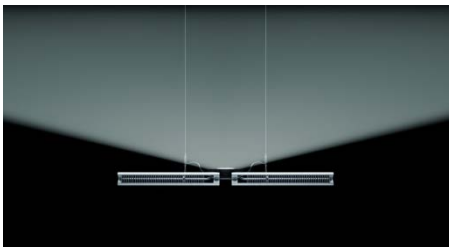
[1] http://energy.gov/eere/ssl/led-lighting-forecast
[2] Ricohet™（リコシェ）テクノロジーは、光の量を有効的に放ちます。ワンタッチで調整できるシャッターと反射面により、不要なダウンライトをアップライトに変えて、光の浪費を防ぎます。

動を始めます。銅管の冷たい部分に到達した蒸気は、すぐに凝縮して水に戻ります。熱エネルギーは、ライトのウィング部分を構成する一連のアルミニウム製フィンから均等に放散されます。水は毛細管現象によって銅製の芯を伝わって LED の方へと戻り、冷却サイクルが再開されます。Cu-Beam™サスペンド型ライトはこの冷却システムによって高出力の LED を利用することができるため、低出力な LED 光源を複数組み合わせる必要がありません。

カスタム設計レンズ：
単一の光源により、正確な光学的コントロールが可能になります。精密に計算された光学的形状により、出力を損なうことなく光を適切な方向に照射することができます。

Cu-Beam Duo は、参考価格 280,000 円（税別）にて 2017 年 3 月 6 日（月）より発売開始いたします。

Cu-Beam™サスペンド型ライトラインアップ：
Cu-Beam™サスペンド型ライトには、Cu-Beam Duo に加えて他 2 製品も用意されています。



- Cu-Beam™up-light は、強力な照明を超広範囲に照射するサスペンド型アップライトです。カスタム設計されたバブル光学レンズを採用して、天井全体を広範囲に照らします。これによりホットスポットが消滅し、天井からの吊り下げ距離も短く済むため、部屋全体を柔らかな間接照明で照らすことが可能です。吹き抜けやロビー、オフィスなどのオープンスペースの照明に最適です。

- Cu-Beam™ down-light は、コントロールされた強力な光を照射するサスペンド型ダウンライトです。カスタム設計レンズとともに精密に計算された光学的形状を採用し、単一の光源によって、ターゲットを絞ったピラミッド型の光で作業エリアを照らします。会議用テーブルやオフィスデスク等の作業面を照らすのに最適です。

DYSON LIGHTING：

ダイソンの照明ラインアップには、Cu-Beam™サスペンド型ライトとともに LED を必要な範囲に正確に照射する CSYS™タスクライトのラインアップも用意されています。ジェイク ダイソンは、過去 10 年間にわたり画期的な照明技術の開発に従事してきました。他の人には見過ごされがちな問題を解決するという理念のもと、現在はダイソンの一員として英国マルムズベリー本社にて自身が手掛けてきたコアライティングテクノロジーの開発デザインチームの指揮を執りつつ、ダイソンのエンジニアや科学者たちと幅広く連携し、照明に留まらない将来的なテクノロジーポートフォリオの開発に取り組んでいます。

ジェイク ダイソンは、ダイソン社のチーフエンジニアであるジェームズ ダイソンの長男で、Central Saint Martins Collage of Art and Design（セントラル セント マーチンズ カレッジ オブ アート アンド デザイン）でインダストリアルデザインを学び、2004 年、ロンドン南西部に小規模のワークショップを設立。フライス盤と旋盤を置き、最初の製品である Motorlight™（モーターライト）を製作。その後、LED テクノロジーに着目し、他 2 人のデザインエンジニアと共にチームを編成、LED の主要な問題点を解決する技術開発に従事。ジェイク ダイソンの事業は 2015 年にダイソンの傘下に入り、現在はダイソンの研究開発ディレクターを務めるとともに取締役にも就任しています。

ダイソンのSNSで製品や店舗の最新情報を発信しています。
https://www.facebook.com/DysonJP https://twitter.com/DysonJP

＜本件に関するメディアからのお問い合わせ＞
ダイソン株式会社 山崎史 Tel: 03-3238-8928 Email: fumi.yamazaki@dyson.com